

清浦ダムハザードマップ

このマップについて

●清浦ダムが決壊した場合にどのような被害となるかを知るために、全ての貯水量(満水)が瞬時に流出する状況を想定しています。
●表示されている範囲以外においても、被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

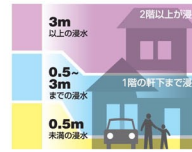
凡例

- 屋内の避難所
- 屋外の避難場所
- 駐在所
- 消防署・消防団詰所
- 屋外拡声放送塔
- 到達時間
- 水部

表示範囲



浸水の深さ

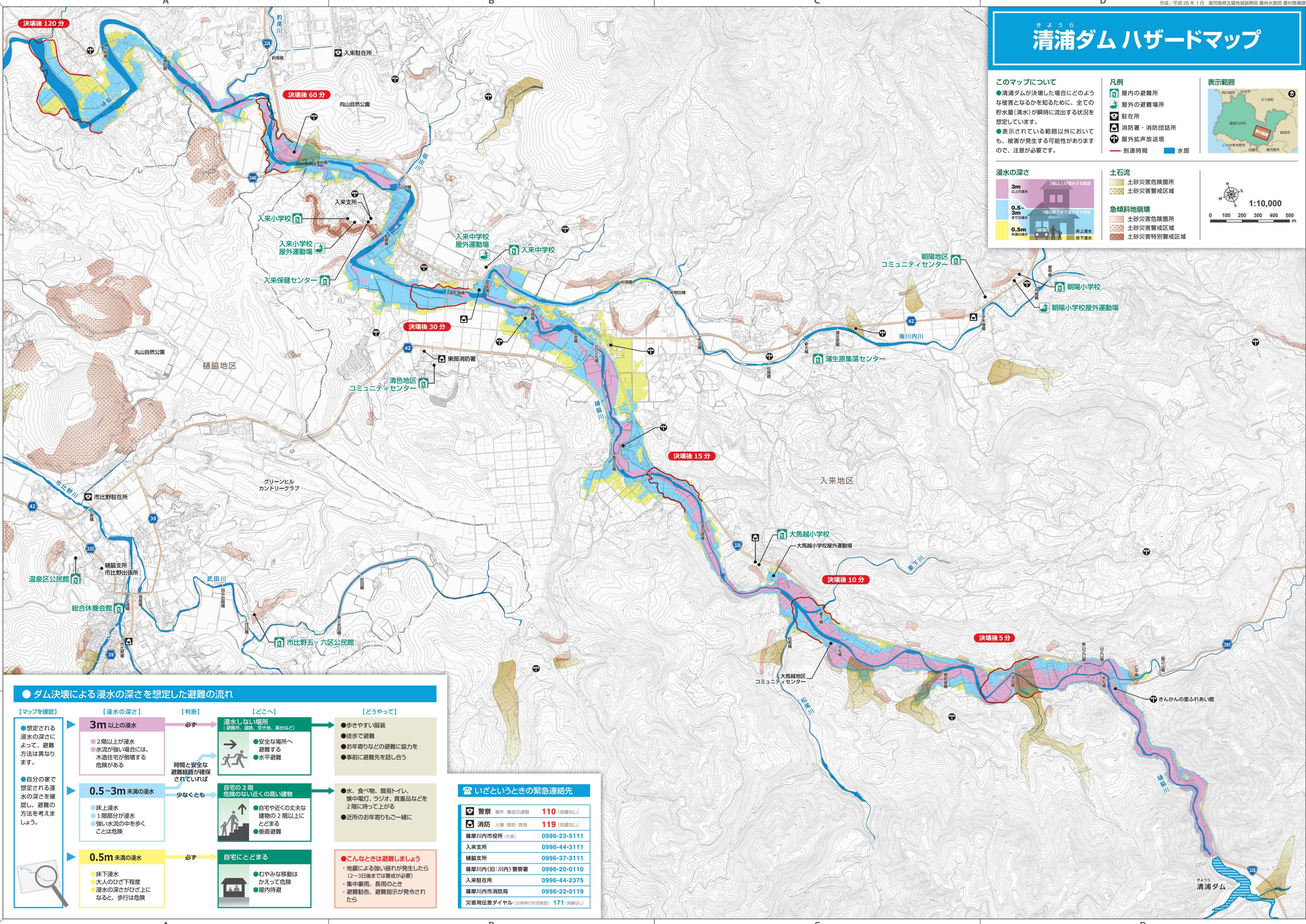


土石流

- 土砂災害危険箇所
- 土砂災害警戒区域

急傾斜地崩壊

- 土砂災害危険箇所
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域



●ダム決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ

【マップを確認】

- 想定される浸水の深さによって、避難方法は異なります。
- 自分の家で想定される浸水の深さを確認し、避難の方法を考えましょう。

【浸水の深さ】

- 3m以上の浸水**
 - 2階以上が浸水
 - 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊する危険がある
- 0.5~3m未満の浸水**
 - 床上浸水
 - 1階部分が浸水
 - 強い水流の中を歩くことは危険
- 0.5m未満の浸水**
 - 床下浸水
 - 大人のひざ下程度
 - 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

【判断】

必ず

時間と安全な避難経路が確保されていれば

少なくとも

必ず

【どこへ】

- 浸水しない場所**
(避難所、道路、空き地、高台など)
 - 安全な場所へ避難する
 - 水平避難
- 自宅の2階**
危険のない近くの高い建物
 - 自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる
 - 垂直避難
- 自宅にとどまる**
 - むやみな移動はかえって危険
 - 屋内待避

【どうやって】

- 歩きやすい服装
- 徒歩で避難
- お年寄りなどの避難に協力を
- 事前に避難先を話し合う
- 水、食べ物、簡易トイレ、懐中電灯、ラジオ、貴重品などを2階に持って上がる
- 近所のお年寄りも一緒に
- こんなときは避難しましょう**
 - ・地震による強い揺れが発生したら(2~3日後までは警戒が必要)
 - ・集中豪雨、長雨のとき
 - ・避難勧告、避難指示が発令されたら

☎ いざというときの緊急連絡先		
警察	事件・事故の通報	110 (局番なし)
消防	火事・救助・救急	119 (局番なし)
薩摩川内市役所	(代表)	0996-23-5111
入来支所		0996-44-3111
榑嶺支所		0996-37-3111
薩摩川内(旧:川内)警察署		0996-20-0110
入来駐在所		0996-44-2375
薩摩川内市消防局		0996-22-0119
災害用伝言ダイヤル (災害時の安否確認) 171 (局番なし)		